

## 令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	水俣市	代表者名	高岡 利治		
担当者部署	総務企画部	連絡先電話番号	0966-61-1648		
担当者役職	主任	担当者氏名	岡本 恵介	連絡先E-mail	
住所	867-0011 熊本県水俣市陣内1丁目1番1号				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	実地での講演会の実施により、担当者が感じていたアドバイザーの熱意が直接多くの職員に伝わったと感じられた。また、わかりやすい言葉や表現の工夫により、長時間の講演にも関わらず多くの職員が真剣に聞き入っている姿が印象的であった。研修後、参加できなかった職員から、参加した職員から非常にためになる研修だったと聞いたので資料をもらえないかとの問い合わせがあったほどであった。 今回の講演会の実施は、本市における今後のDX推進に向けた機運醸成に大きく寄与するものとなったと考えられる。
アドバイザーへの要望事項	特になし

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和5年8月30日	講演(実地)	有	令和5年10月31日	1000
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和5年11月20日	講演（実地）	10時00分	15時10分	70
				活動時間（分）	240
3-2. 派遣場所	会場名	水俣市役所2階会議室	最寄駅	新水俣駅	
	所在地	熊本県水俣市陣内1丁目1番1号	最寄駅からの交通手段	送迎	

### 4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	<a href="https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/</a>
------	---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	管理職、一般職員	38人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市においては、人口減少が進行している中、住民の利便性を向上させて生活やビジネスの拠点として「選ばれる水俣」を実現させるとともに、業務効率化により限られた人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくことを目指している。これらを達成するための有効な手段として自治体DXの推進が考えられるが、職員の中でDXの推進とは何か、あるいは何をすればいいのかということが十分に認識されていない。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	本市のような小規模自治体においてDXに取り組む必要性及び各分野におけるDXの導入事例についての研修（講義）の実施により、職員が各々の担当する業務においてDXの導入を含む業務改革に取り組む機運が醸成されることを目指す。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	管理職向けと一般職員向けの講演会形式の研修を実施した。管理職向け研修ではDXの推進には上司のマネジメントの変革が必要であり、部下に目標と期限を伝えていくこと、そして、IT化して余った時間に何をやらせるかを考えていく必要がある等の助言を受けた。また、一般職員向け研修では、人口減少に伴い職員数の減少が避けられない本市のような小規模自治体こそが率先してDXを推進していくべきであり、それができなければ、将来的には市の仕事は県が代行するようになり、市は「行政事務代行センター」のような役割になってしまう等の助言を受けた。	

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	研修後にアンケートを実施したところ、多くの職員がDXに関する意識が変わったと答えており、今後の業務の進め方や予算編成に反映されることが期待できる。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)		
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 受講した職員全員が、自身の業務に「大変参考になった」(6割)または「参考になった」(4割)と答えている。また、所管する業務についてデジタル化を進めることで効率化できそうな業務について多くのアイデアが寄せられ、受講した感想として本市の状況に危機感を感じたとした職員が多数いた。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	職員それぞれがDX化の重要性を理解し、各所属においてDX化の取組による業務の見直しや予算要求に取り組む。	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

#### 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

